

保護者の皆様へ

平成 30 年 12 月 7 日  
認定こども園みくにひじり幼稚園  
園長 安達 巡

## 保育の取り組みアンケート 集計結果報告

前略 平素は幼稚園のことで、なにかとご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

先日実施しました『保育の取り組みアンケート』にご協力ありがとうございました。半数強にあたる 172 通のアンケートを回収することができました。

今回のアンケート結果から、園の保育の取り組みについて、まだまだ情報や説明が不十分で、保護者の皆さんに不安を与えてしまっていたことを痛感しました。ただ、このように情報や説明が不十分な中でも、多くの保護者の方に、私たちの気づかないことを教えていただいたり、勇気づけられたりと、大変貴重なご意見をいただきました。本当にありがとうございました。集計結果をご報告させていただきます。

### 1. 主体性を大切にしたい保育について

とてもよい 23.9%    よい 41.9%    どちらともいえない 28.5%    よくない 5.7%

主なご意見として

- ・子どもが自分で考えて行動し、自分の意見を言葉で伝えることができるようになる。
- ・制作など本人のタイミングやペースですするため、集中してできる。
- ・子どもが毎日楽しそうに過ごしていて、以前より、幼稚園の様子を話してくれる。
- ・よい取り組みだが、消極的な子や意見の言えない子へのフォローがきちんとされているか不安。
- ・やるときはやる、もう少し厳しくメリハリをつけてほしい。
- ・自由過ぎて小学校に行ってからが不安。

保育の中で、昨年度まで、セリフのように言っていた挨拶や言葉を自分で考えて言えるように促したり、各クラス話し合いの場を多く取り入れたりすることで、自分の考えや思いを言葉で伝えることができる子どもが増えてきました。まだまだ、自分の意見を持っていなかったり、思っていることを言えなかったりする子もいますが、話し合う機会を多く持つことで、友達の意見を聞き、考えに共感したり、うなずいたりし、経験を積んで、少しずつ自分の考えを持つことができるように、教師は、少人数のグループでの話し合いや、必ず全員が言える場を作るなど配慮しています。

また、自由に遊んでばかりで小学校に行ってからが心配というご意見が多くありましたが、

遊びの中には様々な学びがあり、遊びにのめり込んで、達成感や満足感を味わうことが大切です。それによって次の活動へと気持ちを切り替えることができ、再び何かに集中するなど、小学校で生活する力や学習する能力がついていきます。今すぐに成果は出ませんが、その土台となるものを育てることが重要です。とは言っても、保護者の方々のご心配は尽きないと思います。消極的でなかなか自己発揮できない子どもへの対応や、目には見えない少しの成長も見逃さず、保護者の方へ積極的にお伝えし、育ちを共有することがもっと必要だと感じました。

## 2. 園の方針や保育の意図などのご理解

とても理解 20.3%    理解 63.6%    どちらともいえない 6.9%    情報不十分 9.2%

主なご意見として

- ・保育の取り組み報告会に参加して理解できた。
- ・先生方の説明や手紙、子どもの楽しんでいる様子などで理解できた。
- ・グループ参観で、実際に子ども達の様子が見れて理解できた。
- ・この時期にきてやっと理解できた。もう少し早い段階で説明・理解を得るべき。
- ・理解はできるが納得はしていない。

この件に関して、もっと早い段階で、保育内容をご理解いただける機会(報告会等)を持つべきだったことを痛感し、保護者の皆さんに不安を与えてしまったことを、深くお詫び申し上げます。中には、「教育方針が変わった」や「急に方向転換した」等、一部の保護者の方のご意見がありました。こちらの説明不足も大いにあると思いますが、子どもの育ちという点で、保育の一つひとつの見直しを行っただけで、入園の際にお渡ししたパンフレットにも記載している教育目標や4つのキーワード『遊びが学び』『自己肯定感』『心も体もたくましく』『仲間づくり』を大切にする保育方針は、変わっていません。

## 3. 園でのお子さんの様子や成長

とても理解 17.0%    理解 52.0%    どちらともいえない 24.0%    情報不十分 7.0%

主なご意見として

- ・いろいろな文書やホームページ・写真等で様子を知ることができる。
- ・先生から聞いたり、子どもから聞くことで園での様子が分かる。
- ・写真展示をしていることを知らなかった。仕事で見に行けないのでホームページに載せてほしい。

子どもが遊びの中から学んでいることを読み取るために、保育の中の様々な場面で、子どもが夢中になっている姿や、目的や思いをもって遊んでいる様子を写真や動画に撮り、教職員で

一部の写真をもとに振り返りを行っています。(園内研修)

また、その写真を各保育室に掲示したり、ファイリングしたりしていますが、見る機会がない保護者の方が多いことが分かりました。今後は、置き場所を考慮したり、ホームページに掲載するなど検討します。

☆各クラスのアльバムは、子育て相談室前ロビーに置いています。ご自由にご覧ください。

#### 4. 子どもの育ちにとっての室内・屋外環境

とてもよい 32.1%    よい 51.8%    どちらともいえない 14.3%    よくない 1.8%

主なご意見として

- ・うきうきタイムの時間がとても楽しい様子。
- ・異年齢の交流が増え、刺激になって良い。
- ・行事ごとの制作も自由な発想で取り組んでいるようですが、全部を自由にさせるのではなく、最低限の制作はさせてほしい。

行事ごとの制作に関しては、各学年の発達段階に合わせ、ある程度教師が作るものを設定していますが、一つとは決めず、何種類もの中から子どもが自分の作りたいものを選んだり、いろいろな色や素材を準備し、選択幅を増やせるような環境作りをしています。子どもの作りたいタイミングでできるようにしていますが、興味を示さない子どもや、挑戦しようとしなない子どもには、子どもが自らしようという気持ちになれるよう、教師があらゆる方法で働きかけています。実際に、その時は制作活動に参加しなくても、後日参加したり、自分なりに工夫して別のものに仕上げたりするなど、それぞれ自分の考えを持って取り組んでいることが伺えます。

#### 5. 行事をご覧になって、子どもの様子

とてもよかった 47.3%    よかった 43.2%    ふつう 7.7%    よくなかった 1.8%

主なご意見として

- ・運動会の入場行進や、子どもが考えた挨拶など子ども自身が楽しんでいることがよくわかった。
- ・一生懸命に頑張っている姿が見れてよかった。
- ・運動会楽しそうでもよかったが、ダラダラしているように見えた。

行事の内容については、例年とほとんど変わらないはですが、練習方法や取り組み方について、子ども達と十分に話し合い、できているところ、不十分なところなどを、子ども達自身が考えることで、子ども達の行事に対する意気込みや気持ちの入り方が、今まで以上であることを、子どもの様子から教師自身が実感しました。

## 6. 子どもの育ちの変化にお気づきの点

- ・子どもが以前よりいきいきとしている。
- ・自分のことを自分でしたがるようになった。
- ・片付けや手伝いなど進んで行うようになった。
- ・家でも自分でしたい、どうしたらできるかなど自分で考えて取り組むことが増えた。
- ・自己主張が強くなった。反面、手を洗う、お茶を飲む、などの生活習慣が雑になった。
- ・自由に遊ぶ時間が増えたことでトラブルも増えたが、先生が仲介してくれたり話し合いの補助をしてくれているようで安心した。
- ・先生の指示なしでも、給食の用意を自分で始め、おとなしく座って待っていたり、きちんと身についていて感心した。
- ・年少、年中では先生に解決してもらうことも、年長になると自分たちで話し合って解決できるようになってきた。
- ・自分で考えて行動するのは良い点かと思う。ただ、自由度が大きすぎてしつけなどのことが少しおろそかになるのではと心配。家庭でもそのあたりのバランスは難しい。
- ・年少の時にできていたことができていない。メリハリがなく、ダラダラ、グズグズ、ザワザワ感が毎回すごい気がする。
- ・家でいろいろな制作物を一人で考えてたくさん作るようになった。楽しく集中して遊ぶようになった。
- ・友達を思いやる気持ちが育っている。相手の立場になって考えることができるようになった。一方で、先生の言うことを聞かない子や、友達をばかにするような言動をする子に対して不満をもつようになった。
- ・～調べたい、～を持っていきたい、自分の興味のあることは、積極的に園でのことを話すが、今クラスで何をしているかが深くわからないため、情報を共有できる工夫がほしい。
- ・できない子、気づいていない子がいたら、教えてあげる、声を掛けてあげるようになった。また、なんでも、やってみたい気持ちが増えている。幼稚園で「作る」楽しさを満喫しているようで、ぬりえや小さな作品は毎日持って帰って見せてくれる。

ここには書ききれないほど、さまざまな子どもの育ちに気付かれている保護者の方がたくさんおられました。今後も、『子どもの育ち』を真ん中に置いて、保育していきたいと思います。

アンケート結果から、保護者の方の不安な気持ちや、今後に対する期待感など、うかがい知ることができました。また、厳しいご意見もいただいたことにより、不十分なことや解決すべき課題も見えてきました。多くのご意見をいただきましたので、すべてを掲載することはできませんが、いくつかのご質問につきましては、ホームページの情報公開の欄に掲載していますのでご覧ください。

～アンケートにご協力ありがとうございました～

○朝礼がなくなったのはなぜですか？

◎300人の園児たちが、1人の教師の話を中心して聞くことは困難(年長が興味を持てる話は年少には難しく、年少が楽しい話は年長には簡単すぎる)で受動的である事、また、各年齢に応じた内容(季節の話、交通ルールなど)を、各クラスで、それぞれの発達段階に合わせて話すことで、より理解が深まる事等の理由から、今年度、週2回の朝礼の時間を設けず、うきうきタイムの時間を充実させました。また、朝礼で取り入れていた体操や盆踊りなどは、『うきうきタイム』終了時に行い、園庭や廊下などで、喜んで体操する姿が見られます。

○朝の歌やお帰りの歌がなくなったのはなぜですか？

◎朝の歌やお帰りの歌、給食の歌等いつも決まった歌を、当たり前のように毎日唄う習慣をつけるのではなく、さまざまな歌を子ども達に教え、その日唄いたい歌を、子ども達が決めて唄うことで、意欲的に唄う姿が見られます。年少児には、朝の歌やお帰りの歌も教え、曲に親しめるようにしています。また、みくにひじり幼稚園の歌や季節の歌など、各学年段階に合わせて、いろいろな歌に親しめるようにしています。

○給食の時、一斉に『いただきます』『ごちそうさま』をしなくなったのはなぜですか？

◎年少児には、『みんなで一緒に食べる楽しさを味わう』『感謝の気持ちを持って挨拶をする』『配膳の際、危険なため手を膝に置いて待つ』等の、基本的な給食のマナーを知らせます。基本的なマナーを身に付けたうえで、“配膳されたものが揃った子から”“同じグループの友達の配膳ができたなら”等、教師に言われるのではなく自分たちで、状況を判断できるようにするために、この方法を取り入れました。必要に応じて、挨拶の大切さについて、再確認する時間を持つこともあります。

年中児…今では、グループの配膳ができたなら、それに気づいた子の「せえの!」の掛け声で、大きな声で「いただきます」と食べ始める姿が見られます。

年長児…自分の給食が揃ったら「いただきます」をして、食べ始める子もいれば、友達を待つ子もおり、自分でタイミングを考える姿が見られます。

○子どもの意見を尊重しすぎ。強い子の意見しか通らない。

◎話し合いの回数を重ねるごとに、“いつも意見を言う子”“いつも聞いているだけの子”“うなずいている子”、“人の意見に流される子”“自分の意見を持っていない子”“意見は持っているが言い出せない子”などさまざまな姿が見られます。そんな友達の様子に、子ども達自身が気づけるように、教師が言葉がけを工夫したり、気づくように促したりしています。実際に年中のクラスで、子ども自身が気づいて、「いつも同じ人が意見を言っているから、今日は端っこの人から順番に言えるようにしよ」「くじ引きで言う人決めよ」などと発言する子もいました。

○めばえを楽しみにしていたのに残念。なくなったのはなぜですか？

◎子どもが描いた絵や作品をすぐに持ち帰ることで、描いた時、作った時の気持ちやお話をリアルタイムに聴ける。(みくにひじり通信第1号『育ちの芽』にも記載)

「絵画を持ち帰り、何を描いたかどうやってしたのかお話してくれるので、毎回綴じるのは面倒と思っていたけれど結果的にはよかった」というご意見がありました。

○クラスによって差ができています。学年ごとに同じ保育内容にしてほしい。

◎絵画や制作、楽器遊びなど、各クラス行う日や時間に違いはありますが、各学年で話し合い、同じ活動を取り入れています。それらに加え、子ども達の遊びの傾向や、話し合いによって、クラス活動を行っています。クラス活動に関しては、クラス費を利用して、必要な材料を買い揃えることもあります。それぞれクラスの子どもの特徴や興味を持つもの等が違いますので、保育内容は異なります。

○座る習慣がない園児は小学校に行ってからが大変と小学校の先生に聞いたことがある。

◎幼い頃から、“座る練習”をすれば小学校に行ったときに座れるようになるという訳ではありません。幼児期に、好奇心や試行錯誤をしているいろいろなことに取り組み、就学することで、学習への意欲に繋がります。園では、年長組で『がくしゅうひかりのくに』という絵本を通して、一定の時間座って《話を聞く、考える、調べる、意見を出し合う》等の活動を行っています。決して“座る練習”ではなく、興味深く絵本に集中することで自然と座る時間や集中する時間も長くなっていきます。

○以前よりトラブルが増え、内気で言えない子は見逃されたり、我慢したりしている。

◎教師は、子どもが解決しようとする姿を、できる限り見守るようにしています。理不尽な話し合いや、納得のできない結果になった時には、介入することもあります。また、実際に起こったトラブルを取り上げ、話し合い、みんなで解決することもあります。その中で、どのような言葉を選択するべきか、困っている子にどう対応すべきかを学んでいます。

実際に、以前に比べ、意見のぶつかり合いやトラブルは多くなっています。ただ、すべて教師が把握し、仲介に入り、解決することは困難です。子ども達同士で、教師の知らないうちに解決していることもありますし、解決や納得しないまま終わることもあります。その際、子どもの不安を聞いたり、受け止めたり、介入することも必要ですが、時には我慢したり、納得がいかなかったり、解決したりなど、トラブルを乗り越えていく経験をたくさんすることも、子どもの育ちにとって大切であると考えます。

○母の日や父の日のプレゼントについて、「子どもに任せすぎ」「きちんとした形のもの」が良かった。

◎年少組は、初めて保護者にプレゼントするという事で、教師が市販のものを選び、子ども達は、絵を描いてプレゼントしました。年中・年長児は、紙粘土を使って、手作りの作品をプレゼントすることにしました。ただ、自分で考えて作るという点で、戸惑う子、何を贈ろうか考えたものの、紙粘土遊びのおもしろさだけに没頭した子など様々でした。初めて触れる紙粘土に十分親しんだり、見本をいくつか用意したりすることで、子ども達の発想も膨らんだのではないかと、初めて行う取り組みに対する教師の配慮が不十分だったと反省しました。ただ、制作している過程において、あげる人の気持ちを考えたり、自分なりに工夫したりする姿が見られ、心のこもった作品になったと思います。

○以前行っていたことをやめたことによるマイナス点はないのでしょうか。

◎マイナス点とはとらえていませんが、あらゆる場面において、子ども自身が気づくまで待つことや失敗する経験も大切であるということ、また、考える時間を多く持つという点において、以前より時間がかかる活動があります。